■NGOサンキューセミナー「GPEオンライン勉強会　～　新型コロナ感染拡大　今、教育に求められていることは」

■2020年5月22日（日本リザルツ東京事務所、広島、パリ、ワシントンDC）

■参加者

国会議員、外務省、広島大学教育開発国際協力研究センター、早稲田大大学院、・東京大学大学院、広島大学大学院、GPE事務局、公益財団法人味の素ファンデーション

■内容

教育分野における開発課題について共有があった。教育に対する投資を増やすことにより、2000年代から2015年までの間に、学校に行けない子どもたちの数は確かに減少したが、学校に行けるようになっても基本的な読み書きすらできないという質の問題が残っている。また、コロナ禍で教育が後回しにされている。

GPE (Global Partnership for Education) の活動とその成果について報告があった。2015～2019年までの間にGPEのグラントにより、2,480万人の子ども（内、女子が1,850万人、紛争影響国に暮らす子が1,180万人）が裨益した。また、同期間で支援対象国における初中等教育の終了率は、72.2％から74.7％に改善した。

GPE等の国際機関を通じた多国間（マルチ）の支援では日本の顔が見えにくく、その意義について理解を得るところが非常に難しい。むしろ顔が見えるバイ（二国間）で支援するべきではないかという問題提起があった。日本のGPEへの拠出額は、先進国の中では最下位レベルであり、日本の発言力がこれまでは弱かったが「毎年50億円程度出すことにより状況が変わってくる」。また、国際協力機構（JICA）によるバイの支援はプロジェクト重視であり、教育の質を向上させる現場重視の一方、点から面への展開が弱い。このようなところで、マルチのGPEと協力できるのではとの意見が出された。